

安全性追求、量から質への転換… 新たな価値を提供する工業会へ

森井 博

『自転車・バイク・自動車駐車場 パーキングプレス』誌 発行人

二瓶 清

公益社団法人立体駐車場工業会 会長
株式会社IHI 執行役員 グローバル・営業統括本部長

【プロフィール】

二瓶 清(にへい きよし) 1963年9月生まれ、神奈川県出身 1987年早稲田大学商学部卒業、石川島播磨重工業株式会社(現株式会社IHI)入社 2000年関西支社第三営業部課長 2004年物流・鉄構事業本部物流システム営業部課長 2006年人事部人材開発・採用グループ部長 2007年物流・鉄構事業本部物流システム営業部長 2011年営業・グローバル戦略本部 シンガポール支店長 2012年IHI ASIA PACIFIC PTE.LTD.取締役COO 2015年産業・ロジスティックスセクター副セクター長 2017年理事 営業本部関西支社長 2020年執行役員 グローバル・営業統括本部長(兼)産業システム・汎用機械事業領域副事業領域長 2020年6月公益社団法人 立体駐車場工業会 会長就任 趣味は散歩、ゴルフ、読書

国内外が未曾有の危機に陥った2020年は、好むと好まざるとにかかわらず、大きな転換を迫られた年だった。在宅テレワークの劇的な普及、AI、データ等を使った、ビジネスのさらなる効率化・省力化…駐車場、駐輪場の「現場」に軸足を置いてきた私たちパーキング業界にも、この波は等しく到来した。特にオンラインを用いたテレワークは当初こそ戸惑いはあったものの、コスト削減や移動時間の大幅な節約などメリットも大きく、今では有用なコミュニケーションツールとして定着した。その点では急激な進歩を遂げられた年だったかもしれない。

今回迎えるゲストは、そんな大転換の年となった2020年に公益社団法人立体駐車場工業会の会長に就任した、二瓶清氏だ。この事態をどのように乗り越え、社会やビジネス環境、パーキング業界の変化にいかに対応していくのか。率直な思いを聞いた。

(対談収録：2020年11月4日)

シンガポール駐在中に パーキングビジネスに出会った

森井 IHI入社後はどの部署に配属されたのですか。

二瓶 自動倉庫などを扱う物流システム営業部です。ちなみに隣の部署がパーキングでしたね。そこでトータル20年ほど、東京と大阪で営業を経験した後、採用と教育の責任者をやれということで人事部に異動しました。人事部にいたのは2年半で、その後、物流システムに戻り、部長職を拝命しました。そして東日本大震災が起きた2011年に海外勤務となり、およそ4年間シンガポールに赴任しました。実はこの時、初めてパーキング案件を手掛けたんです。

森井 どのような案件だったのですか。

二瓶 以前、こちらの対談で弊社の桑田

が話していたのですが(注：2015年9月号特集対談で掲載)、シンガポールの住宅公団から初めて日本製の機械式立体駐車場を受注した際、現地の担当者の上司が私だったのです。シンガポールは大変レギュレーションが厳しい国で、かなり担当者は苦勞していたようです。

森井 なるほど。

二瓶 シンガポールにおよそ4年駐在しまして、帰国後は産業・ロジスティクスセクターの副セクター長、関西支社長などを経て、2020年4月から現職を務めております。そして、その2ヵ月後の

2020年6月には、公益社団法人立体駐車場工業会(工業会)の会長に就きました。パーキングについてはあまり経験がありませんが、誠心誠意努力をして参ります。

森井 入社した動機をうかがってもよろしいでしょうか。

二瓶 学生の時、漠然と「世界を相手にスケールの大きな仕事をしたい」という思いがあり、重工業の業界を中心に就活したんです。縁があり、石川島播磨重工業に入社しました。

森井 そうですか。実は私も石川島播磨に入った理由は、海外で仕事をしたいからだったんです。「イシプラス」(石川島ブラジル造船所)で働きたいという夢があったのですが、入社してみたら溶鉱炉の部署で高炉設計をすることになりました。そして、およそ半年間の研修を受けました。

二瓶 そして終了後に、晴れて高炉設計に就かれたわけですか。

森井 いえ、それが違うんです。研修を終えた頃にはもう高炉設計部はそれほど人を必要とせず、代わりに本格的なモータリゼーション時代の到来で、パーキングの需要が右肩上がりになっていました。そこでパーキングに行ってくれ、と。最初は立駐の設計をやっていたのですが、お客様に立駐の仕組みを説明するために技術に精通したセールスエンジニアが必要ということになって、私も

その役目を果たすことになりました。東芝に転職した昭和54年までは、ずっと駐車場に携わっていましたね。

二瓶 そしてサイカパーキング株式会社に移られてからは、自転車駐車場を中心に手掛けられていると。やはり長いキャリアをお持ちなんですね。

会員企業と社会にとって 「お役に立つ工業会」に

森井 改めて、二瓶さんの工業会会長としての抱負を聞かせていただけますか。

二瓶 承知しました。まず申し上げたいのは、半世紀以上にわたって、諸先輩方が築いてこられた立体駐車場業界の取りまとめ役である当工業会の伝統と精神の継承が、第33代の会長である私に課せられた役割である、ということです。

森井 昨年2020年は、工業会の設立からちょうど55年という節目の年でしたね。

二瓶 はい。しかし残念ながらコロナ禍によって、かなり活動が制限されることになりました。しかし本年、2021年は、感染状況を注視しつつ、徐々に活動を展開していきたいと考えています。

森井 そうですね。現在もさまざまな業界で徐々に始まっていますが、徹底した感染対策を行った上で、ニューノーマルに即した形の活動を始めていかなければなりませんね。

二瓶 新村前会長から3つの方針を受け継いでいます。第一に「安全性・信頼性の向上」、第二に「量から質への転換」、第三に「海外展開」です。新村前会長は工業会のコンセプトとして「発信力のある工業会」を標榜しておられました。私はもちろんそれを継承するとして、付け加えさせていただくなら「お役に立つ工業会」を目指そうと考えています。

森井 「役に立つ」というのは具体的にどういうことでしょうか。



二瓶 二つの面がありまして、ひとつはもちろん工業会の各会員企業にとって役に立つ存在であること、そしてもうひとつは社会に貢献できる存在であることです。

森井 良いスローガンですね。立体駐車場は社会インフラとしても欠かせない要素です。ところで、実は、弊誌『パーキングプレス』が創刊したのも工業会の発足と同じ55年前でした。当時は工業会の話題を記事化することは多かったですね。あたかも機関紙のようだったかもしれません。弊誌はサイカパーキングの初代社長・稲垣信一郎が発行したのですが、稲垣は同時に工業会立ち上げにも深く携わっていきまして、工業会の初代事務局長も務めていたのです。

二瓶 そうだったんですか。

森井 はい。創刊後の経緯や当時の工業会の動向などは、2020年3月に発刊した弊誌の別冊「700号記念号」に掲載されています。よろしければご覧ください。

二瓶 もちろんです。拝読致します。

付加価値を高める信頼の証 「標章貼付制度」

森井 工業会の直近のトピックに挙げられるのが、2020年10月1日から運用

が始まった、新設駐車装置向けの「標章貼付制度」です。こちらについてご説明いただけますか。

二瓶 まずは背景から申し上げます。2012年頃から機械式立体駐車場に絡む痛ましい事故が相次ぎ、国土交通省から「機械式立体駐車場の安全対策の強化について」という6項目の要請を受けたことは、ご存じかと思います。

森井 はい。

二瓶 要項の1項目に「JIS規格の安全要求事項に関する基準を満たした装置であることが利用者にも容易にわかる仕組みについて早期に検討すること」がありました。標章貼付制度は、その対応として検討が始められたのです。

森井 それまで、もちろん工業会として、安全性、信頼性の向上を目的とした努力はされてきたわけですね。例えば、安全対策のための駐車場施行規則を一部改正し、新しい大臣認定制度を構築されたり、さらには新しい認証基準、JISも制定されていました。

二瓶 ご指摘のとおりです。ただ、お客様にとっては、実際に車を駐車する立駐が、いかに安全対策を施しているのかわかるすべがなかったんですね。

森井 それを知らしめるための「標章貼付制度」であると。

二瓶 そうです。認証基準に定められた安全機能を満たす、問題のない駐車装置であることを証明した「自己適合宣言書」と「認証証明書」によって、設置された立駐が安全な装置であることを工業会で確認、標章貼付を認める制度です。これを目に入りやすい場所に貼ることで、お客様はひと目で安全性を容易に理解できますし、周囲の住民なども不安を払拭できます。これは先ほど申し上げた方針「量から質へ」の観点でも、圧倒的に多い既設置の安全性・信頼性向上を後押しする効果があると期待しています。

森井 「適合装置」と明示してあり、本当に一目瞭然で良いですね。また、利用者にとってだけでなく、この「標章貼付制度」は、貼付された立駐が入るオフィスビルや商業施設の付加価値も高めるでしょう。駐車場の安全性・信頼性を証明するステッカー等の貼付制度は、一般社団法人日本自走式駐車場工業会でも行っています。業界全体の姿勢として普及していけば良いですね。

二瓶 そのとおりですね。

新標章

大型用



二段・多段用



サイズ

縦型：W50mm×H90mm

横型：W90mm×H50mm

新設の立駐装置に貼付する「標章貼付制度」の新標章。1) シンプルでトレンドに左右されない 2) 立駐工の名とロゴマークを入れる 3) 国土交通省認可の登録認証基準適合が理解できる 4) 利用者が容易に記載文言を理解できる 以上4点を検討し、実現したデザインとなっている

オンライン講習会の実施を積極的に展開

森井 以前から工業会が継続してきた「既設の機械式駐車装置の稼働実態に関する継続的稼働実態情報の共有活動」についてはいかがでしょうか。

二瓶 活動で得た成果は、今までの会員企業だけの調査ではなく、非メーカー系のメンテ業者である非会員企業さんの協力を得て、より正確な稼働実績を把握できた、意義あるものだとして認識しています。

森井 具体的には、どんな意義があったと思われますか。

二瓶 納入実績だけでなく、稼働データも得られたことによって、安全性を向上すべき既設の装置がどのくらい使われているのかが分かったことが大きな収穫ですね。今後の質の向上を目的とした施策検討で、大いに参考になるでしょう。

森井 2020年はコロナ禍で残念ながら中止されたと聞いていますが、それまで継続されてきた「機械式立体駐車場安全

講習会」の成果について教えてください。

二瓶 今までさまざまな方々に受講いただいたアンケートを拝見すると、国土交通省が発している安全対策ガイドラインや、立駐の適切な維持管理の指針についての理解が、確実に各方面に浸透していると実感しています。このことは、事実、事故事例が減少傾向にあることでも裏付けられています。再開については、感染状況に負うところが大きいのですが、中止になった講習会でも、200近くの申し込みを受けていたと聞いております。

森井 関係者の関心の高さ、立駐の安全性担保に向けた意識が強くなっているのを感じますね。

二瓶 本当にそうですね。今後は、出席予定者に対して安全講習会資料の配布や、事故事例の紹介、安全性担保に向けた新たな取り組みなどの要点を、映像にまとめてオンライン配信する形での講習会実施も検討しています。

森井 良いですね。オンラインの講習会、研修会などは、もはやwithコロナ時代の新たな仕事のスタイルとして皆が取り組



み始めたと感じています。試してみると、低コスト、集中できる、発信側が話しやすいなど、いろいろなメリットがあることも分かってきました。近々、パーキング業界でも当たり前のスタイルとして定着するでしょう。

二瓶 そうですね。JPBさんはリモート講習会などの運営ノウハウをどんどん蓄積している最中とうかがっていますので、我々にもご協力いただければ幸いです。

高品質な立駐が次代のまちづくりと連携

森井 さて、ここからは工業会の未来に関する話題に移りたいと思います。現実には目を向けますと、かつて最盛期の立駐は、年間およそ12万車室は製造していたと思いますが、近年では2万台近くに減少しています。そして、そこにコロナ禍が追い打ちをかけました。この状況にどう対処されていきますか。

二瓶 社会的な事象として、高齢化、若者のクルマ離れ、カーシェアリングの着実な普及などがあり、いずれも立駐、ひいてはパーキング業界全体にマイナスの影響をもたらしています。これからの時



工業会の有力会員企業である、新明和工業株式会社と群馬大学による共同実験。機械式駐車設備へ自動運転車の誘導を試みた。自動運転車と機械式駐車設備の協調により、安全かつ高精度な自動入庫の実現に期待ができる(画像提供/ IHI運搬機械)

代、かつてのように製造数を増やせというのは現実的ではありません。工業会としては、先述した「量から質へ」の方針で臨むのが最適解であると考えています。国土交通省から出されている駐車場施策ガイドラインにもありますが、駐車場が不足していた時代の「量」の供給から、魅力的な市街地づくりに貢献する「質」の供給への転換に即した、フレキシブルな対応を目指していきたいと考えています。また、高品質な立駐が新たなまちづくりと連携する、あるいは、自動運転や、自動バレーパーキングとの親和性を高める可能性もあります。

森井 そうですね。ただ、実はコインパーキングのほうは、それほど目に見えて利用者が減っているわけでもないんですよ。というのは、密になりがちな公共交通機関を避けて車で移動する人が増えたため、コインパーキングが一時利用されるケースが増えているからなんです。一方、立駐はどうでしょう。これはあくまで私の肌感覚ですが、例えば私が月極で借りている立駐は2019年の消費税増税以降、空気が目立つようにな

りました。立駐は月極契約が多いからこそ、空きが増えたのではないかと推察しています。これを受けての私見となりますが、立駐は、駐車以外の用途を模索しても良いのではないのでしょうか。例えば、以前IHIの施設で自動二輪の駐車場として活用する実験が行われました。万が一オートバイが庫内で倒れると、ガソリンが漏れて発火に至るリスクがあるなど、実用化には至っていませんが、私は挑戦する価値はあると思っています。また、東京都の小池都知事は原付バイクや自動二輪の駐車場増設を推奨している方ですので、これを追い風にできるかもしれません。

二瓶 なるほど。関係各所との調整は必要ですが、用途を広げるのはひとつの方法ではありますね。

日本の装置の国際的なプレゼンス向上を目指す

森井 もうひとつ、未来の話題でお聞きしたかったのが、国際交流活動についてです。ここにきて、少しずつ主にビジネス目的の国際線も運航を再開し始めています。工業会は以前より国際交流が盛んでした。2021年は何か展開を考えていらっしゃいますか。

二瓶 コロナ以前には、台湾での中国国民党工業会の定期総会への参加や、香港特区政府、韓国政府関係者が来日し、国土交通省の担当者も参加して機械式立体駐車場の設置に関する法規制、注意点、安全性などについて意見交換をしていました。去年はそれらの活動はほぼストップしていましたが、現在、中国、台湾、韓国、そして日本の4つの工業会をネットで結び、定期的な情報交換の開催が提案されており、対応を協議しているところです。工業会としては、JISや認証基準における安全基準などの整備や、海外視察などの国際交流を通じ、国際的に日本の装置のプレゼンスが高まるように活動していきたいと考えています。

森井 良い取り組みですね。

二瓶 一方、国内における各省庁との活動にも力を注いで参ります。国土交通省とはJISや認証基準の改定、消費者庁安全委員会とは事故情報、厚生労働省とは作業安全の改定、公正取引委員会とはさまざまな仕組みを構築する上での相談など、引き続き、必要に応じて意見交換を行っていきます。

森井 では最後に、IHIでも積極的に取り組んでいる自動運転や、近未来の駐車場の在り方に関してどんな見解をお持ちか、聞かせていただけますか。

二瓶 自動運転への対応は、技術、社



スマートフォンなどを使った車の入庫予約が一部ユーザーの間で使われ始めている。現地駐車場まで行かず、自宅などから出庫呼び出しや、出庫予約の時間指定ができ、待ち時間を短縮できる点がメリットだ。将来的には時間貸し機械式駐車場の入庫予約などに繋がっていくことが期待される(画像提供/IHI運搬機械)



IHI運搬機械が開発したBaaSアプリを活用した駐車場カーゲート操作の実証実験(画像提供/IHI運搬機械)

会、法整備、経済合理性を考慮しつつ、受け入れる側の駐車場に何が出来るかが焦点になります。また、自動運転に加えて、CASE (Connected, Autonomous/Automated, Shared, Electric)への対応も求められるでしょう。機械式立体駐車場ならではの特徴を活かした進化に期待し、工業会の方向性を議論していきます。**森井** 自動バレーパーキングについてはいかがでしょうか。

二瓶 安全性・信頼性向上の面で、非常に期待しており、実現に向けて工業会として積極的にできることをしていきたいと考えています。もうひとつ、期待しているのは、東京五輪を契機に今まで以上に普及が期待される駐車場の予約システムです。これまでは一時貸しの平面駐車場、コインパーキングが主な場所として使われてきましたが、機械式立体駐車場でも駐車場予約の仕組みを運用できないか、活用の道を探りたいと考えています。先ほど森井会長がおっしゃったとおり、立駐は主に月極利用であり、時間貸しへ



豊洲IHIビルのIHIクラブにて対談を収録。年明け以降も依然厳しい状況は続きそうだが、この状況下でできることを肅々と進めていこう！と意見が一致した

の転用は難しい状況にはありますが、車両自体の進化、さらにはIoT技術の進化などで、空き車室を駐車場シェアの領域に誘導できる可能性があるのでは、とも感じています。

森井 立駐のシェア転用は、国土交通省など関係省庁との調整など、クリアすべき課題が多いと承知していますが、可能性を模索する価値がありそうですね。

二瓶 はい。今後も中長期的な視点に

立ち、変貌するまちや社会と共存可能な機械式立体駐車場の新たな姿を見極めながら、情報収集と発信、意識改革に努め、お役に立てる工業会を目指していきます。

森井 分かりました。本日は多様な話題にお答えいただき、大変参考になりました。2021年はニューノーマルをふまえつつ、パーキング業界一丸となって難局を克服していきましょう。本日は誠にありがとうございました。 **PP**

【パーキングプレス 発行人】 **森井 博** のプロフィール

- 一般社団法人 日本パーキングビジネス協会 理事長
- 一般社団法人 自転車駐車場工業会 会長
- 一般社団法人 日本シェアサイクル協会 専務理事
- 東京京橋八重洲ライオンズクラブ 会員
- 六本木男声合唱団 団員
- サイカパーキング(株)、日本駐車場救急サービス(株)、モリスコーポレーション(株) 夫々会長

【略歴】 1938年(昭和13年)宮崎県延岡市生れ82歳。
1957年(昭和32年)石川県立金沢泉丘高校卒
1961年(昭和36年)東京商船大学(現東京海洋大学)卒
1961~1979年 石川島播磨重工業(現:IHI)
1979~1991年 東芝
1991年~ 現職

- 【趣味】** 現在: ゴルフ・車・自転車・合唱
過去: 水泳・野球・陸上競技・テニス
- 【遍歴】** ゴルフ: 毎週1回ホームコースでラウンド、週1~2回練習場通い。エージェンシーを毎年1回が目標。
車: 毎日通勤で運転。中古車3台を大切に乗り廻す。
自転車: 数台保有するも年齢を考え余り乗らない。
歌: 六本木男声合唱団で毎週1回練習に励む。年1~2回サントリーホール等で公演。2018年6月にはNY・カーネギーホールでも公演。
仕事: 健康のため平日は毎日9:00~17:00出勤。(コロナ禍の期間は在宅テレワーク+週3日出勤)
水泳: 小学校に入る前から泳ぎは得意。
野球: 中学生までは本気でプロになるつもりであった。
陸上競技: 高校時代 短距離、やり投げ、インターハイ2回出場。
テニス: 元テニスのコーチでかなりの腕前(?)になるも、45歳時アキレス腱断裂でウインブルドンを断念。

過去の対談ゲストの方は、WEBでご紹介しています

パーキングプレス 対談 で検索

または <http://www.parkingpress.jp/taidan/> にアクセス

対談記事のバックナンバーもご覧いただけます。

